

令和4年度 特色ある道徳教育推進校

県立長生高等学校（定時制）

研究主題

ケースメソッド教授法を用いた、道徳授業の実践と評価

取組1 ケースメソッド教授法の導入

今日の社会は多様化が進み、様々な価値の対立が生じるようになった。そこで、他者の考えに触れ、他者の考えを否定することなく自分の考えにうまく組み込み、自分の考えを深化させ、複雑化した社会を生き抜く実践力を身に付けさせたいと考え、ケースメソッド教授法を用いた道徳の授業実践を行うこととした。

ケースメソッド教授法とは、参加者が判断や対処を求められる模擬ケースを使い、討論形式を用いた参加型の問題解決型の学習である。ケースメソッド教授法は、以下の4ステップで行われる。

- ①個人研究
- ②小グループディスカッション
- ③大グループディスカッション
- ④ふりかえり

①個人研究については、事前に模擬ケースを読み込み、自分が登場人物の立場だったらどのような行動をとるかをワークシート等を書くなどして、明確にしておく。②③のディスカッションが、ケースメソッド教授法のメインであり、授業としてはこのディスカッションに時間を割く。まず②小グループディスカッション（4人程度）を行い、それぞれの意見や考えを共有する。次に③大グループディスカッションを行い、クラス全体で討論を行う。②③のディスカッションでは、「意見は否定しない」「一つの意見にまとめるわけではない」という点に留意させる。また、教員はファシリテーターに徹して、出た意見を板書し、討論の活性化を図っていく。最後に④振り返りを行い、自分の考えの深化を図る。以上の4ステップを行うことで、疑似体験を通して実社会を生き抜く実践力を養っていくのがケースメソッド教授法である。

取組2 静岡大学教育学部鎌塚優子教授、中村美智太郎准教授による職員研修および授業の実施

ケースメソッド教授法を用いた道徳の授業実践を行うにあたり、令和3年9月16日（木）に静岡大学教育学部鎌塚優子教授、中村美智太郎准教授をお招きし、高校道徳の在り方、ケースメソッド教授法についての職員研修を行った。

また、鎌塚教授には令和3年9月16日（木）と令和4年9月12日（月）の2回にわたり、本校の1、2年次生対象に道徳の授業を実施していただいた。授業で扱う模擬ケースも、鎌塚教授に本校生徒向けに書き下ろしていただいた。それぞれの授業の概要は以下のとおりである。

1 回目の授業

日時：令和3年9月16日（木）

実施方法：新型コロナウイルス感染症対策の観点から、zoomにて実施。

対象：1、2年次生（現2、3年次生）

テーマ：「作品を壊したのは誰？」

ケースの概要：ある日、クラスの生徒の美術作品が壊れていることが発覚した。担任からは犯人捜しをしないようにと言われていたが、クラス内で犯人捜しが始まってしまった。

生徒の活動：「作品を壊してしまったが言い出せない当事者」や「犯人扱いされてしまった生徒」、「クラスの委員長」などの立場になって、自分ならどう思ったか、どう行動するかを検討して、クラスで討論し、意見共有を行った。

生徒の反応：他の人の意見を知ることができた。自分の考えを否定せず、他の人の意見も取り入れることができ嬉しい。いろいろな人の意見を聞けるような人になりたい。どれだけ多くの人々が納得できる答えを出せるか考えた。考える中で、新しい意見に気づけた。（ふりかえりシートより一部抜粋）

2 回目の授業

日時：令和4年9月12日（木）

実施方法：鎌塚教授に来校してもらい、教室で実施

対象：1、2年次生

テーマ：「決まったこと 修学旅行の班決め」

ケースの概要：クラス内で修学旅行の班の決め方について話し合っていたところ、クラスの中で比較的発言力を持った生徒から、「仲の良い人同士で組みたい」という意見が出た。クラスのメンバーからも同意する意見があがり、流されるまま決定してしまった。

生徒の活動：「決定に疑問を持っている修学旅行実行委員会のメンバー」や「クラスに話せる人が少ない生徒」などの立場になって、自分ならどう思ったか、どう行動するかを検討して、クラスで討論し、意見共有を行った。また、班決めの際に必要なことについても話し合いを行った。

生徒の反応：結論が一緒でも、理由が違ったりして勉強になった。皆が皆、良い気持ちになるような答えを出すのは意外と難しいことだと思った。皆の意見がいろいろあり、自分では思いつかなそうな意見がいっぱい出て面白かった。いろいろな人の意見が聞けて考え方が広がった。（振り返りシートより一部抜粋）

主な成果と課題

- 教職員間で、高校道德の在り方についての共通認識が図れた。
- 他者の意見を自分の意見に組み込み、自分の考えを深化する能力が養えた。
- 他教科でもケースメソッド教授法を取り入れていくことが課題である。
- 道德の授業内では、自分事として真剣に考えられるが、授業以外の生活に反映しきれていない点が課題である。

授業実践事例

長生高等学校（定時制） 1年A組 「道徳」を学ぶ時間指導案

令和4年11月24日（木）

1 教材名 「決まったこと第二部 修学旅行を控えたある日の出来事」

2 教授方法

本校定時制では、令和3年度から静岡大学教育学部鎌塚優子教授と中村美智太郎准教授協力のもと、「ケースメソッド教授法」を用いた道徳の授業実践を行ってきた。今年度も同様に「ケースメソッド教授法」を用いた授業を行う。

「ケースメソッド教授法」とは、参加者が判断や対処を求められる模擬ケースを使い、討論形式を用いた参加型の問題解決の学習をとおして、自分ならばどのように行動すべきかを判断する能力を形成するための教授法である。

3 本時の指導

(1) ねらい

- ①討論をとおして、他者との関わりにより、自分自身の判断や行動が変化することを体験する。
- ②他の人の発表をきちんと聞き、自分の考えを他の人に伝えることができるようにする。
- ③ケースをとおして自分の考えをまとめることができるようにする。

(2) 使用する教材の特質

使用する教材は、静岡大学教育学部の鎌塚優子教授が、本校の生徒に合わせて書き下ろした模擬ケースである。令和4年9月12日に「決まったこと 修学旅行の班決め」というテーマで鎌塚教授に実際に授業をしていただいた際、本校生徒から「班決めはくじ引きにすれば良い」という意見が出たため、その意見を踏まえて、新しく模擬ケースを書き下ろしていただいた。ケースの概要は以下のとおりである。

ケースの概要

くじ引きで修学旅行の班が決められ、班別自由行動についての話し合いが行われていた。しかし、ある班の班長はメンバーをまとめられなかったり、ある生徒は修学旅行に行きたくないと言い出したり、色々なトラブルが生じてきた。

4 展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	・ケースの内容を整理する。	・発問を入れながら、人物同士の関係を整理させ、板書する。
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ・米本の立場にたって、自分の考えを述べる。 ・橘の立場にたって、自分の考えを述べる。 ・南の立場にたって、自分の考えを述べる。 ・班決めをやり直すかどうかについて、自分の考えを述べる。 ・班決めの際にどのようなことに配慮する必要があったかについて、自分の考えを述べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討論→全体討論。 ※グループやクラス全体で意見をまとめるわけでは無いということに留意させる。 ※他の人の意見を聞いて、自分の考えを深化できるよう促す。 ※出てきた意見を深掘りし、考えを揺さぶれるような発問を心がける。 ※意見は板書していく。
まとめ 2限次	・事後ワークシートを記入する。	

5 授業の様子

(1) 板書

- 班長である米本の立場だったらどうする？
 - ・めんどくさい
 - ・自分が悪くないのになぜ責められるのだろう
- 車イスの橘の立場だったらどうする？
 - ・申し訳ない
 - ・自分も好きなコース周りしたいな
 - ・気にしないでいいよ
- あなたが修学旅行実行委員だったら、班決めをやり直しますか？
 - ・やり直したいけど、みんなに確認する
 - ・班行動も決まりかけているから、このままにする

(2) 生徒の様子

いろいろな考えが出てきて、具体的に取り組めた。皆が納得できるようにするのはとても難しいことだと思った。自分と全然違う意見があり、いろいろな考えがあると気づいた。皆が考えたことを聞けて、ワクワクした。自分では気づけない意見がたくさんあった。自分の視野が広がった。(ふりかえりシートより一部抜粋)